



消防大学校だより

消防団長科（第68期）

消防大学校では、総合教育において、消防団の上級幹部である団長又は副団長に対し、その職に必要な知識及び能力を総合的に修得させることを目的に「消防団長科」を設置しています。

本年度の消防団長科2期（第67期・第68期）のうち、第68期では、全国より消防大学校に集まった26名が平成27年12月7日から11日までの5日間にわたる全寮制の集合教育を終え、全員が無事卒業しました。

教育訓練では、消防庁長官の講話、日本消防協会の秋本会長による消防団幹部のあり方に関する講話をはじめ、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律が制定されたことに伴い、消防団を取り巻く環境の変化に対応するため、地域防災室長による消防団運営に

関する講話や現場指揮能力の向上のため、指揮シミュレーション訓練の充実を図っています。

特に指揮シミュレーション訓練では、大規模災害活動事例を学ぶとともに、消防団本部と消防本部との災害発生時における連携及び情報連絡体制の確保をテーマとした学生参加型の訓練を実施しています。

研修を終えた学生からは、「消防団長としてのあり方を再確認することができた。」、「各地の消防団の状況を知ることで今後の団運営に参考となった。」等の感想が多く寄せられました。

今後は、消防大学校で修得した高度な知識・能力に加え、研修を通じて得られた全国の情報を活かし、地域の安全の確保・維持のために更なる活躍を期待いたします。



消防庁 佐々木長官の講話



日本消防協会 秋本会長の講話



指揮シミュレーション訓練



訓練礼式（表彰要領）の実習

警防科 (第98期)

消防大学校では、専科教育において、警防業務の教育指導的立場にある職員に対し、警防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させ、警防業務の教育指導者等としての資質を向上させることを目的に「警防科」を設置しています。

本年度の警防科2期（第97期・第98期）のうち、第98期では、学生60名が事前教育として約1ヶ月間のeラーニング（インターネットによる個別学習）の受講を経て、平成27年10月21日から12月10日までの51日間にわたる全寮制の集合教育を終え、全員が無事卒業しました。

教室での座学（講義）では、最新の消防行政の動向に関する講義のほか、火災現場指揮、安全管理、特殊災害対策、医療機関との連携、教育技法等、警防業務の教育指導者等として資質の向上に努めました。

実技では、小・中・大隊長としての段階的な指揮訓練、特殊災害対応訓練（BC災害対応）、危険予知訓練、多数傷病者対応訓練等を実施し、広く警防活動における高度の知識及び技術を専門的に学びました。

また、入校中に修得した知識・技術の集大成として学生企画総合訓練を実施し、訓練の企画から実施、検証、報告までの技法を学びました。

さらに、火災件数の減少と熟練職員の大量退職に伴う経験の浅い若年職員の増加への対応や火災性状等の認識不足による受傷事故を減少させるため、実火災体験型訓練（ホットトレーニング）を実施しました。

研修を終えた学生からは、「消防教育の最高機関である消防大学校の施設、装備、カリキュラム等、ここでしか学べないことが沢山あった。」「現場経験の減少が進む中、火災の動きや熱の体感等、今後の活動に必要な経験ができた。」「全国の消防本部の方と意見交換を通じて、地域特性で抱える課題などを検討し、様々な考え方があること知ることができた。」など、教育訓練全般及び学生相互の交流を含めて、総合的に有益であったと評価する意見が多く寄せられました。

今後は、消防大学校で修得した幅広い知識と磨きをかけた技術に加え全国の仲間から得た情報を活かして、警防業務の教育指導者として活躍することが期待されます。



総合訓練3（学生企画訓練）の様子



実火災体験型訓練の様子

火災調査科 (第30期)

消防大学校では、専科教育において、火災調査業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させ、火災調査業務の教育指導者等としての資質を向上させることを目的に、「火災調査科」を設置しています。

本年度の火災調査科2期(第29期・第30期)のうち、第30期では、全国より集まった48名が平成27年10月21日から12月10日までの51日間にわたる教育訓練を終えて、全員が無事卒業しました。

教室等での座学(講義)では、火災調査の進め方や現場の見方などの基本要領に始まり、火災調査を取り巻く法律関係や対人折衝能力、教育技法、実務上の課題への対応力の向上を図るほか、情報公開や、報道対応としての消防広報の実務などの修得に努めました。

実技を伴う実科では、模擬家屋火災、車両火災、電気火災、化学火災、微小火源火災及び燃焼機器火災の鑑識実習を実施しました。

鑑識実習のうち、模擬家屋火災は、約20㎡の建物を4棟仕立て、その内装や家財を実際の家屋と同様に設定し、異なる出火原因で燃焼させた上で、現場と同じように火災調査を進めていくものです。各棟に配置された講師の指導の下、調査の基本から応用まで広範囲にわたる実習となりました。各棟とも、製造物から出火した可能性を見据え、後日、出火箇所付近にあった製造物の鑑識を実施したほか再現実験等を行うなど、科学的かつ客観的な火災調査の実践に努めました。

学生からは、電気鑑識や車両鑑識要領、火災調査書類の作成要領について自信がついたとの意見が多く寄せられたほか、同じ目標を持った仲間が全国から集い、入校期間中は様々な意見を交わすことができたことは大変貴重であったとの感想が寄せられました。

今後は、消防大学校火災調査科の卒業生としての誇りと自信を持ち、科学的根拠に基づいた火災調査業務を遂行し、火災予防に寄与することが期待されます。



電気鑑識実習の様子



模擬家屋消火の様子



模擬家屋調査実習の様子



模擬家屋調査実習の様子



消防団教育訓練推進者養成コース（第1回）

消防大学校では、平成25年12月に、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律が施行されたことを踏まえ、都道府県、市町村及び消防本部等の消防団の教育訓練に携わる者を対象とした研修課程で、消防団法制、消防団運営等、その業務に必要な実務的な知識及び能力を修得させることを目的に「危機管理・防災教育科 消防団教育訓練推進者養成コース」を実施しています。

平成27年度の消防団教育訓練推進者養成コースにおいては、第1回学生60名（平成27年12月14日～18日）が、消防大学校での5日間の全寮制の集合教育を終え、全員が無事修了しました。

研修は、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律が施行されたことを踏まえ、法整備に関する国の取組から、各分野の専門家による地域防災力としての消防団のあり方、団員教育の進め方、教育技法等を主眼とした講義や、図上訓練（DIG）手法、災害シミュレーション

といった実動訓練を交えて、消防団の教育訓練に携わる者に対して指導・育成に必要な知識及び能力の修得に努めました。

また、課題研究では、各班ごとに日頃抱えている問題点の中から研究課題を決定し、その解決策を探るため、限られた時間の中で、都道府県消防学校教官と消防本部担当職員が各々の視点から活発な意見交換を行い、各関係機関との連携の重要性について認識と理解を深めました。

研修を終えた学生からは、「各地の学校教官や消防団担当職員との交流を図ることができ、ネットワークが広がった。」「消防団教育の現状と課題について、情報収集及び研究することができ、理解を深めることができた。」等の意見が多く寄せられました。

今後は、全国の仲間から得た情報を活かし、地元消防団の充実強化のために消防大学校での研修で培われた成果が大いに発揮されることを期待いたします。



指揮シミュレーション訓練の様子



東京消防庁消防学校 新田講師による講義

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712